



## 「膝に来て 模様に満ちて 春着の子」 中村草田男

(子どもが甘えるように膝に寄ってきました。華やかで美しい晴れ着に身を包んだ幼い子が・・・)

親に甘える子どもの姿が目に見えかかってくるような微笑ましい句ですね。

さあ、新しい年が始まりました。子どもたちもきっと希望に胸を膨らませていることでしょう。今年をどんな年にしたいのか、親子で一緒に話してみましよう。



### 子どもに手伝いをさせましよう(2)

「青少年育成センターだより第22号」で“子どもに手伝いをさせましよう”と提案をしましたが、ここで改めて、子どもの手伝いについて考えてみます。

ある本に次のようなことが書かれていました。

・・・ある人が知り合いのドイツ人の家庭を訪れました。ちょうど午後のお茶の時間だったのですが、その家の小学生の坊やが、かいがいしくキッチンと居間を往復し、あらかじめお母さんが用意しておいたケーキやお茶のおかわりを、タイミングよく見事にサービスしてくれます。おかげで楽しい会話の途中でお母さんが席を立つということは、とうとう一度もありませんでした。すっかり感心して「坊や、偉いね」と声をかけると、すぐにお母さんがこう受けました。「この子はやさしくて、よく気の付く、本当にいい子ですよ。私も大助かりです」

それを聞いていた坊やの顔が喜びと誇りに輝いたことは、言うまでもありません。

(「子どもを伸ばす一言、ダメにする一言」 浜尾 実 PHP文庫)

これはドイツでの話ですが、とても良い話ですね。

おそらく、この子は、普段から手伝いをよくしているのでしょう。人前で、お母さんからほめられて喜んでいる子どもの顔が浮かんでくるようです。

皆さんの家庭で、「卵を買ってきて欲しいのだけれど」、「うんいいよ。お小遣いはいくら?」というような会話はありますか。そして、子どもの手伝いに対して小遣いを与えておられる家庭はありますか。

手伝ってくれた後は、小遣いでなくて「ありがとう。助かったわ」という言葉ひとつで充分です。手伝いをすることで、家族の役に立ち、喜んでくれる。そのことに喜びが感じられる子どもに育てることが大切です。物やお金で子どもの意欲づけをすることはいいことではありません。手伝いに小遣いを与えることで、物やお金でないと動かない子どもに育ってしまいます。ここは親が失敗しがちなところですよ。

子どもに手伝いをさせることは、「自己肯定感が高められる」(「青少年の体験活動の現状について」=文科省)など、子どもの成長にとって大切なものが得られます。手伝いをさせないということは、子どもが自己肯定感を高めることを放棄しているようなものです。子どもには手伝いをさせ、家族の一員としても自覚を持たせるようにしましょう。

得てして、「子どもには手伝いよりも勉強をさせたい」と考えられている親が多いのではないのでしょうか。勉強をすることも大切なことです。しかし、手伝いをさせることで、「自ら進んでいろいろなことにチャレンジする」「進んで奉仕する」「人の喜びを自分の喜びと感ずることができる」、そんな素晴らしい人間に育ってくれます。今は冬休み中で家庭にいる子どもも多いことでしょう。ぜひ、手伝いを子どもに頼んでみられませんか。

(文責=青少年育成センター指導員 藤村)